

科目ナンバリング		U-LAS02 10003 LJ35									
授業科目名 <英訳>		音楽芸術論Ⅰ Theory of Musical Art I				担当者所属 職名・氏名		非常勤講師 嶋田 久美			
群	人文・社会科学科目群			分野(分類)		芸術・文学・言語(基礎)			使用言語	日本語	
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）				
開講年度・ 開講期	2025・前期		曜時限	月2		配当学年	全回生	対象学生	全学向		
[授業の概要・目的]											
「癒し」という観点から音楽史を捉える。音楽は有史以来、多くの文化において人びとの「癒し」として機能してきた。その際、音楽はどのような文脈で用いられ、概念化されてきたのか。その歴史的変遷を主に西洋思想のなかに探る。											
[到達目標]											
音楽と癒しの関係について、時代ごとの特徴と歴史的背景を理解し、関連する基礎的な諸概念と音楽理論の知識を習得する。そのうえで、「音楽と癒し」というテーマについて、自身の音楽体験とのつながりを考え、論述する力を身につける。											
[授業計画と内容]											
「音楽と癒し」というテーマについて概説したのち、以下の項目について、それぞれ2～3回の講義を行う。（授業回数はフィードバックを含め全15回とする）											
1．西洋音楽について 2．古代における音楽と癒し 3．中世における音楽と癒し 4．ルネサンス期における音楽と癒し 5．近現代における音楽と癒し											
[履修要件]											
・初回にガイダンスを行うので、履修予定者は出席すること ・音楽芸術論Ⅱ（後期）との連続した履修を推奨する											
[成績評価の方法・観点]											
・リアクションペーパー（40％）、および期末レポート（60％） ・10回以上の出席を必須とする											
[教科書]											
授業内で適宜資料を配付する											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
配付資料と参考文献、および自身のノートを活用し、前回までの講義の流れを振り返っておくこと。入門的なものでかまわないので、音楽史の研究書をあらかじめ通読しておくことが望ましい。授業内で実際に音楽を聴くための時間は限られるため、各自でできるだけそれを補うことが望ましい。											
[その他（オフィスアワー等）]											
[主要授業科目（学部・学科名）]											